



隔週金曜日発行

東大阪市議

中西のぶひろの 週刊なのタイムス

～東大阪の市政や地域情報をお伝えする～

第53号令和5年3月17日発行

発 行：東大阪市議会議員 中西のぶひろ

住 所：東大阪市瓢箪山町2-14

連絡先：(TEL)072-982-5127 (FAX)072-985-6972

携 帯：090-8164-5857

メール：nakanishi.jimusho@gmail.com

ホームページ：<https://www.nanotimes.net/>

■道路の凸凹発見・・・そんな時にはLINEで通報できます

創刊号でご案内した「東大阪市LINE公式アカウント」（図①）は、令和3年12月1日に開設されて以来、登録者数が39,944人になりました（3月20日現在）。単純計算すると、1年3ヶ月で48万7千人の市民のうち8.2%の人が登録していることになります。登録すると市からいろいろな情報が届き、防災・子育て・ごみ出し案内・イベント・経済・観光・スポーツ・税金・新型コロナ・ワクチンなど、様々な多岐にわたる情報を選択して知ることができます。また市民からの情報を双方向で市が受け取ることができるようになり、例えば道路やミラー、公園の情報などを市民から市に発信できるようになっています。道路が陥没していて舗装してほしい、ミラーの設置要望など、写真を撮って画像を送ることができ、これまででは議員に頼んでもらっていたようなことも直接市にいふことができます。また市は回答した内容について1か月ごとに公表するなど、行政と市民の関係はどんどん進化していっています（図②）。

これは、便利ですね、登録がまだの人は、登録して一度試して見られたらどうでしょうか。



図① 東大阪市LINE公式アカウント

LINE通報一覧（道路） 2月1日～2月28日 受付分					
【対応状況について】					
・東大阪市で管理していないものについては、内容に応じて管理者へ情報提供をしております。					補修が完了しています。
・損傷や不具合以外のご意見については、今後の参考とさせていただきます。					補修予定です。
					経過観察 現場確認した結果、早急な補修の必要がないと判断しました。
					損傷確認できず 現場を確認しましたが、損傷を確認できませんでした。
					対応不要 現場確認した結果、対応する必要がないと判断しました。
※他部署対応、対応不可、本市所管外の案件については、対応状況にコメントを記載します。					
No.	通報日	時間	種別	場所	対応状況
1	2月2日	12時58分	照明灯の球切れ	東鴻池4丁目	対応中
2	2月10日	12時40分	道路の損傷（穴ぼこ）	鴻池徳庵町	対応済み
3	2月11日	16時01分	道路の損傷（穴ぼこ）	東鴻池1丁目	対応済み
4	2月12日	10時53分	道路の損傷（穴ぼこ）	五条町	対応済み

図② 市の回答内容(令和5年2月)

■連続テレビ小説「舞いあがれ！」の放映最終日に、感謝祭を開催！！

ワクワクするストーリー展開の「舞いあがれ！」も、残すところあと2週間になりました（3月19日現在）。NHKでは、応援してくれた視聴者への感謝を込めて、最終放映日の3月31日（金）午後6時から東大阪市文化創造館で「舞いあがれ！感謝祭」を開催することです。当日はゲストとして舞ちゃんの夫婦役の福原遥・赤楚衛二さん、亡くなった舞ちゃんのお父さん役の高橋克典さん、脚本を書かれた桑原亮子さん、歌人の俵万智さんという豪華ゲストですが、私としては母親役の永作博美さん、祖母役の高畑淳子さん、ドラマの中でホントいい味を出していた貴司君の両親役の山口智充・くわばたりえさんの生の声を聞いてみたいですね。

当日の入場は抽選ですが（3月13日締切り）、当日の模様はライブ配信され下記のURLからアクセスできますが、当日夕方にアクセスが可能になるということです。

<https://www.nhk.or.jp/livestreaming/maiagare/?cid=livemail01>

また、見逃し配信もされますが、詳細はまだ発表されていません。（図③）



図③ 舞いあがれ！感謝祭

■赤ひげ大賞に、東大阪の小児科医・尾崎眞理子さんが選出される



図④ 尾崎眞理子氏

(日本医師会HPより)

全国から選ばれた5人の赤ひげ大賞受賞者のうちの一人として、東大阪市の尾崎医院（若江岩田駅前・希来里1階）の小児科医・尾崎眞理子さん（71）（図④）が選出されたという新聞記事に接しました（3月15日・産経新聞）。「赤ひげ大賞」は日本医師会と産経新聞が主催して、住民に寄り添い地域で献身的な医療に取り組む医師を顕彰するもので、今年が第11回目になるということです。

報道によると、尾崎さんは中小企業が集積し共働きが多いモノづくりのまち東大阪で、平成19年に主に乳幼児を持つ親とその子どもを対象にした「つどいの広場」を、続けて平成20年には「病児保育室ウルル」を開設して、働く母親らの子育てを15年にわたって支援してきたことが評価されたものです。今でこそ「つどいの広場」事業も、「病児保育事業」も市が取り組む子育て支援事業になりましたが、当初は自己資金でスタートさせたものであり、赤字の補填を尾崎医院で賄いながら地域住民の生活を支え続けた地道な取り組みは、まさに「赤ひげ先生」を彷彿させるものであり、東大阪でそのような活動をする人が受賞されたことは、私達にとってもうれしいことです。受賞誠におめでとうございます。

■3つ目の病児保育室「こひつじ」が3月28日にオープン！

赤ひげ大賞に選出された尾崎眞理子氏が手掛け、受賞の理由になった病児保育ですが、東大阪市ではこれまで次の2か所で開設されていました。①ウルル（尾崎医院）<岩田町4-3-22-206希来里2階・TEL072-968-7227>②こひつじ（ふじもとクリニック）<小阪本町1-11-3・TEL06-6730-5828>ですが、今度あらたに東地区に③もりっこ（藤戸小児科）<日下町4-1-66・TEL072-985-1218>が3月28日に開設されることになりました。

東大阪市の病児保育事業（図⑤）は子育てと就労支援の一環として、保育所（園）・認定こども園・幼稚園等に通所している児童もしくは、小学校1年生から3年生までの児童が、病気などの「回復期」もしくは、「回復期に至らない場合」で集団保育が困難な場合に、児童を預かり保育や看護を行なうものです。対象になる児童は、東大阪市内に居住し、市内または市外の保育所（園）（認可外保育所も含む）及び幼稚園に通所（園）している児童及び小学校1年生から3年生までの児童になります。

ただ国では病児保育の必要性が高いことから、内閣府がすすめる企業主導型保育施設において病児保育事業を手掛ける事業者に加算して事業を推進しようとしており、東大阪市内の企業主導型保育施設で、15カ所の病児保育室が開設されています。企業主導型保育事業において病児保育事業を実施する場合には、地方自治体の基準と企業主導型保育事業の基準のどちらをも満たす必要がありますが、企業主導型保育事業は市の認可外であり、どれだけ市の監督機能が及ぶかは問題が残るところです。企業主導型保育施設が実施する病児保育室は、サービスの中身は施設によって異なりますので、サービスを受けたいときには直接電話で問い合わせをされるのがいいでしょう（図⑥）。



図⑤ 東大阪市の病児保育について



図⑥ 企業主導型保育所が実施する病児保育室

